

星天ニュース

～ 相鉄線の連続立体交差事業のお知らせです。～

第3号

発行日：平成19年4月16日
発行：横浜市道路局
編集：相模鉄道株式会社

日頃より、相模鉄道本線（星川駅～天王町駅）連続立体交差事業にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。今回は現在の工事状況とともに事業に関するキーワードについてお知らせいたします。

星川仮駅舎・仮跨線橋（自由通路）工事

現在星川駅では、高架化工事期間中にご利用いただく仮駅舎や仮跨線橋の工事を進めており、北側（帷子川側）仮駅舎の一部を平成19年1月27日から使用開始いたしました。

その後、線路上の跨線橋部分の鉄骨や上り線側改札内エレベーターを設置（右写真 参照）引続き、下り線側改札内エレベーターの設置、仮上り線切替後の上りホーム階段の設置、南側（星川SFビル側）改札外エレベーター・仮跨線橋・仮駅舎の設置という順に工事を進め、平成20年3月末に現在の駅舎から仮駅舎への切替えを行う予定です。



仮跨線橋に設置された改札内上り線用エレベーター
この位置に仮設ホームが設置される（平成19年4月撮影）

仮上り線敷設工事

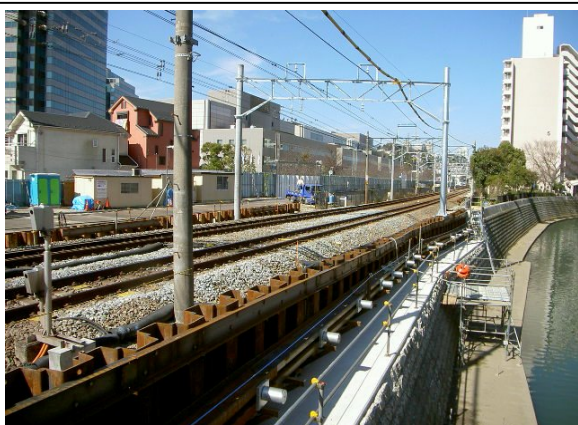
今回の事業で最初の線路切替えとなる仮上り線への切替えを本年10月末頃に予定しています。

現在、天王町駅から星川駅までの区間や星川駅から横浜新道までの区間では、仮上り線を敷設する工事を進めています。軌道（レール、マクラギ、道床〔砕石〕）の土台となる路盤の整正を行い、その上に新しい軌道を敷設していきます（右下図参照）。天王町2号踏切付近では、現在の上り線の横に仮上り線の軌道が姿を見せています（右写真 参照）。

また、鉄道の運行に必要な電気施設（架線や信号ケーブル等）の敷設や移設も平行して進めていきます。

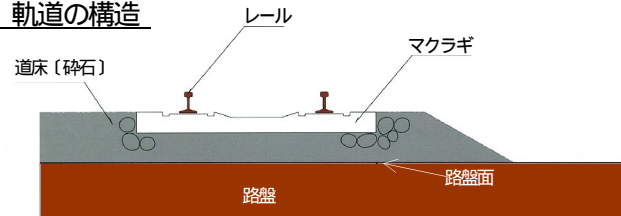


天王町2号踏切付近で敷設中の仮上り線軌道
左側は現在の上り線（平成19年3月撮影）



仮上り線が帷子川に最も近接する天王町1号付近で行った護岸防護工（平成19年3月撮影）

軌道の構造



～お知らせ～

相模鉄道株のホームページでも、連続立体交差事業に関する「現在の工事状況」や「事業に関するお知らせを」をご覧ください。こちらもあわせてご利用ください。

ホームページアドレス：

<http://www.sotetsu.co.jp/train/crossover/>



星川2号踏切の切替えが完了しました

前号でお知らせした星川2号踏切（水道道：市道鶴ヶ峰天王町線）の移設切替えが予定通り3月10日に完了し、前後の道路と連続して歩道が整備されました。（右写真 参照）



ホシテン豆知識 (その1)「連続立体交差事業とは？」

今回の事業に関するキーワードについて
お知らせするコーナーです。

「連続立体交差事業」とは、鉄道を高架化または地下化することにより複数の踏切を一挙に除却し、踏切による交通渋滞や事故を解消、線路で分断された市街地の一体を図り、都市活動の活性化に寄与するものとして、横浜市のみならず全国各地で実施されています。

踏切が閉まると、自動車や歩行者は待たなければなりません。この踏切待ちによる損失時間を全て合計してみると、全国で約5.5億人時間/年と計算されます(試算値)。これは全国民が1年間に約5時間も踏切で待たされているということになります。また、踏切は通常その前後より道路幅が狭いことが多い上、歩道と車道の区分は白線のみとなるなど、歩行者にとって危険な場所です。また、車椅子の車輪が踏切の溝に落ちるなどの危険性があり、バリアフリーの面からも問題があります。鉄道の両側まで来ている道路が、鉄道の部分で分断され、踏切も無いために迂回をさせられている場所が多くあります。

連続立体交差事業の実施により、踏切待ちが無くなることに加え、周辺一帯の道路交通がスムーズになることが知られています。鉄道両側を行き来する歩行者の数も増えます。交通の円滑化や、新しくなる駅や線路など、街の雰囲気が生き生きとしてくるため、連続立体交差事業を実施した地区では、街が活性化していきます。(出典:「踏切すいすい大作戦」<http://www.fumikiri.net/>)

～お問合せ～

- 事業に関するお問合せ 横浜市 道路局 計画調整部 鉄道交差調整担当
Tel 045(671)2792
- 工事に関するお問合せ 相模鉄道(株) 鉄道カンパニー 施設部
星川・天王町駅付近連続立体交差工事事務所
Tel 045(335)6733